

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「みとめ合い、つながり合い、ささえ合い、わたしたちの未来を創ろう 三ツ沢の子」
【知】基礎・基本を身に付けて主体的に思考・判断・表現するとともに、知恵をはたらかせて生きる力を育てます。
【徳】自他のよさを認め、相手の立場や気持ちを思いやって行動する力を育てます。
【体】望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる力を育てます。
【公】自分の役割と責任を自覚し、他者と協働してよりよい社会を創る力を育てます。
【開】自他の違いを受け止めながら、多様性を大切にし、ともに生きていく力を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈主体的に未来を創る力〉

具体化した資質・能力

「主体性・積極性」「問題を発見する力」「問題解決能力」
「コミュニケーション能力」「社会生活の中での協調性」

中期取組目標

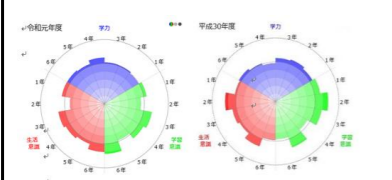
〇家庭、地域、関係機関との連携を深め、子どもたち一人ひとりが様々な「ひと、もの、こと」とのつながりを実感し、大切に、創り上げていく学校づくりをめざします。
◇「わかる授業」「魅力ある授業」「探究・協働の授業」の展開と汎用的能力を育成します。
◇人権尊重の精神を基盤とする豊かな心の育成を行います。
◇個に寄り添った児童理解と組織的な児童指導を行います。
◇集う人々による学びの集合体としての学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知) and 具体的取組 (①新学習指導要領に基づき、「学力向上アクションプラン」の改善に向けた分析会議を行い、「教えて考えさせる授業」づくりのための授業改善を実践する。②個に応じた指導の充実を図るとともに、身に付けた知識や技能を使ってよりよく課題を解決していく力を育む。)

学力向上に関わる本校の状況

横浜市学力学習状況調査等からの実態把握 (令和元年度の分析)



教科学習の状況
○国語科:各学年でばらつきが見られる。
○算数科:全体的に市平均を上回っている。特に、「技能」が伸びている。
○社会科:どの学年も非常に高い。特に「技能」が伸びている。
○理科:全体的に市平均を上回っている。学習意識も非常に高い。
令和2～3年度は調査を実施していないが、学習の成果物や定期テスト等の見取りから、理科や社会科についての基本的な力はどの学年も安定していると見える。国語科については、「相手の意図を読み取る」ということや自分の考えを整理して書くことについて、学年でのばらつきが見られる。一方、自分の考えを伝えることについては、意欲的に捉えている児童が多い。豊かな体験を重視した本校の取組や重点研究が生きている場面と言える。

今年度の目標

「分かる授業」「魅力ある授業」「探究・協働の授業」の展開と汎用的能力を育成します。

目標を実現するための具体的行動プラン

【基礎基本の定着や自己の考えを発信するための環境づくり】
○1年…幼児期の学びを生かして主体的に学習に取り組めるように、スタートカリキュラムを工夫する。子どものつまずきや困り感に寄り添うなど、個に応じた指導を意識する。
○2年…反復練習をすることで、基礎・基本の定着を図る。また、自己肯定感を高めるために、子ども一人ひとりの思いや考えを大切に価値づける。
○3年…子どもたちの興味・関心に合わせた学習内容や体験活動を充実させ、基礎・基本の定着を図る。
○4年…学習活動の基礎・基本として、場面や相手を意識して話を聞くことや自分の考えを発言することができるように指導を行う。
○5年…自分の考えを伝え合う力を身に付けるために、発言しやすい環境を整える。
○6年…共感的に関心を持って育て、安心して発言できる環境を整える。
【相手意識をもって協働的な学びができる場の設定】
○1年…自分の思いや考えを自信をもって伝えられるように、一人ひとりの考えを大切に。また、友達の思いや考えを受け止めながら学習できるように、聞く指導を徹底する。
○2年…学習したことを活用できるように、目的意識や相手意識を明確にした学習展開を考える。
○3年…自分で考え、自分の言葉で表現できるような学習場面を増やし、考えのつながりを意識した話し合いを工夫する。
○4年…自他の考えを比べたり関連付けたりしながら、より良い考えを形成し、表現できるように学習場面を工夫する。
○5年…集団での対話を通して自分なりの考えをもち、相手意識をもって表現したり、伝えたりすることができるようにする。
○6年…問題解決の流れや成果物の作成の中で自分の考えを整理して取り組み、発信できるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (①行事等の縮小によって難しくなっていた他者とのコミュニケーション場面の充実を図る。②学校生活における様々な場面で、児童一人ひとりが自尊感情を豊かにし、自己有用感もち、他者理解をスムーズに行うことができるような教育環境を築く。)

豊かな心に関わる本校の状況

人との関わりを大切にしたり、友達と気持ちよく過ごそうと努力できる子どもたちが多く見られる。優しく素直な子どもも多い。また、地域との繋がりが深く、コロナ禍における行事の縮小の中でも、三ツ沢の地域の良さを自覚し、それを表現できる子どもたちの姿が見られる。素直な心をもっているため、人との関わりの中で、成長したりそれを実感できたりする場面が多い。
一方で、学年が上がるにつれて、自己肯定感や自己有用感が低くなる傾向がある。決して否定的に捉えているわけではなく、「何が自分にとって望ましい姿か」や、「目標を達成するどのようなよいことがあるのか」など、想像する力が弱い。その分、自信がなく、決定を人任せにしたり、人のことを自分事として考えることができている。自分の将来について思い描くことも難しい子も見られる。
想像力についていうと、友達に優しく接する場面も多く見られるが、言葉の選び方が適切でないことから相手を傷つけてしまうこともある。なぜ、相手が傷つくのかを相手の立場になって考えることができていないことがある。
これらを受け、日々の道徳科の取組だけでなく、各教科領域等において人とのつながりをもたせたり、豊かな体験活動を設定したりすることで、子どもたちが具体的な目標や達成感をもてるようにしている。また、人権週間の取組の中で、他者理解に努めているところである。

今年度の目標

人権尊重の精神を基盤とする豊かな心の育成を行います。

目標を実現するための具体的行動プラン

〇人権・児童指導・道徳・学校保健委員会で、重点目標を共有し、自他を思いやる気持ちを育てていく。
・学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と、各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。
・全学級の道徳の授業公開を1回以上行い、授業改善を行う。
・人権週間や人権の年間の取組を見直し、内容を精選して行う。
・自他を大切にすることを全ての教育活動を通して育てられるようにする。
・体験活動を充実させるための教材の吟味を行う。
・体験活動を通して自分なりの思いや考えをもつこと、様々な考え方や価値観を学んでいけるようにする。
・道徳教育について、家庭、地域に発信し、意識の啓発を図る。習得したことや育成されたことを家庭に伝える。
・意図的に多様な価値観に触れる機会を設定し、多様な考え方について考えていけるようにする。
・価値のある体験活動を通し、思いやりの心や規範意識、望ましい勤労観や職業観について考えていけるようにする。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (①学校教育活動全体で、健康教育の取組を積極的に行っていく。②担任を中心に、養護教諭、学校栄養職員と連携し、児童一人ひとりの健康な生活習慣の確立と食育の充実を図る。③体力、運動能力の状況を把握し、体育科学習を中心とした改善策を図る。)

健やかな体に関わる本校の状況

本校の生活習慣として、朝食の摂取率は、「毎日食べる」と回答している児童が9割いる。運動頻度は、週に1～2回以上している児童が7割以上いる一方で、全くしないという児童が1割いる。また、1日の運動時間は、30分以上の児童が7割程度いる。
新体力テストの結果としては、概ね全国や神奈川県平均を下回っている。特に、低学年においては、長座体前屈が他の項目の平均より大きく下回っている。高学年では、ソフトボール投げが他の項目の平均より大きく下回っている。学校全体で、反復横跳びが他の項目の平均と大きく差がある。
生活習慣のアンケートから、本校の児童の生活習慣は、概ね整っていると考えられる。このことから、コロナ禍による、運動時間の減少や運動の質の低下が考えられる。
児童一人ひとりの課題は、それぞれ異なる。そのため、食育や体育科学習の時間を活用して子どもたちが自分自身の課題を把握し、運動できるようにしていく。(1年男子握力、3年女子握力、上体起こし、長座体前屈、50m走、5年男子握力については全国平均を上回る。)

今年度の目標

子どもたちが自分自身の生活習慣や体力について自分なりに捉え、一人ひとりの課題に気が付けるようにします。

目標を実現するための具体的行動プラン

〇目標設定と実現に向けた健康・体力向上
・運動委員会を中心とした、様々な運動の楽しさを味わえるような2回の運動週間
・学校保健委員会を中心とした、年間を通したよい姿勢をとることの励行
・集会委員会が企画した、異学年で協力して行う遊びや縦割り活動での遊びや運動の機会
○体育科・保健体育科での取組
・保健・安全計画、食教育、体育的行事及び児童会活動、保健学習等の機会を有効に設定し、健康に関する意識の高まりを目指す。
○他教科での取組
・早寝・早起き・朝ごはんの奨励
○目標設定と実現に向けた健康・体力向上
・運動委員会を中心とした、様々な運動の楽しさを味わえるような2回の運動週間
・学校保健委員会を中心とした、年間を通したよい姿勢をとることの励行
・集会委員会が企画した、異学年で協力して行う遊びや縦割り活動での遊びや運動の機会
○体育科・保健体育科での取組
・『できた』『わかった』と子どもが自覚し、そのためどんな学び方をしたのかを子ども自身が振り返ることができる授業の実践。
・日頃の体育学習で習得した基礎的な運動技能を活用し、競技や応援をすることを通して、運動する楽しさや喜びを味わうことができるような運動会の計画・実施。
○他教科での取組
・早寝・早起き・朝ごはんの奨励